

令和 2 年度（2020 年度）

事業計画

自 令和 2（2020）年 4 月 1 日
至 令和 3（2021）年 3 月 31 日

公益社団法人 日本国際民間協力会
京都本部：京都市中京区六角通新町西入西六角町 101 番地

新しく令和という時代を迎えた今、日本をはじめ世界の各地では、過去に類例がないほどの猛暑や豪雨が発生し、民族間の紛争は繰り返され、貧富の格差はますます拡大し、感染症が蔓延しています。テレビなどのメディアでは、連日、そうしたニュースが繰り返されています。なんと難しい状況に人類は遭遇していることでしょう。

突然ですが、次の4つの質問を考えてみてください。

- 世界の人口のうち、極度の貧困（1日2ドル以下の生活）にある人の割合は、過去20年でどう変わったでしょうか。答えは、「半分に減った」です。
- 世界中の1歳児の中で、なんらかの病気に対して予防接種を受けている子供はどれくらいいるでしょうか。答えは、「80%」です。
- 低所得国に暮らす女子の何割が、初等教育を修了するでしょうか。答えは、「60%」です。
- 自然災害で毎年亡くなる人の数は、過去100年でどう変化したでしょうか。答えは、「半分以下になった」です。¹

答えはおそらく想像とは異なっていたのではないのでしょうか。それも、想像していたより、良い方に異なっていたのではないのでしょうか。これら4つの例のように、全体として捉えたり、長い目で捉えれば、状況は改善しています。それは、世界中の人が良い方向に向かいたいと願うからであり、かつ、そのための努力をし続けているからなのです。

一方で、一つ一つの問題を個々に見れば、まだまだ解決困難な課題かもしれません。やはり、依然として、困難を抱えた人々がおり、脆弱な環境で生活している人々がいます。しかし、人類は、「No one will be left behind（誰一人取り残さない）」というSDGsの標語のもとに、あらゆる人が協力し、2030年へのゴールに向かっていきます。悲観することなく、小さなことでも一つ一つの課題を解決していくことが、いずれは大きな問題の解決につながると信じ、そこに私たちが進む道があります。

本会にとって、2019年はケニアとインドにおいて新たなチャレンジが始まった年でした。2020年にはヨルダンで、また新たなチャレンジが始まります。これらはいずれも、2030年の世界が目指すゴールへの寄与に結びつく新たなプロジェクトではありますが、それらはまた、過去に培ってきた経験の賜物でもあります。今年度は、これら3つの国を柱として、これまでと同様に、政治、思想、宗教に偏ることなく、中立の立場で、本会をご支援くださる皆さまの信頼に応えられるよう、真摯に活動を継続し、より質の高い支援を実施できるよう、安全に配慮しながら、役員、ボランティア一丸となって力を尽くしていきます。

¹ 出典：FACTFULNESS ハンス・ロスリング他

～用語説明～

■エコサントイレ：

エコロジカルサニテーション（環境衛生式）トイレの略。

NICCO が過去にベトナム、マラウイ、ケニア、ミャンマー等で導入したモデルはし尿（便と尿）を分離して処理し、栄養分の多い尿はすぐに希釈して畑に還元し、便は便層に滞留させ、灰をかけて pH を上げてアルカリ性にすることで半年程度かけて衛生化し、土壌改良剤として畑に還元することが可能となる。

■SDGs（Sustainable Development Goals：持続可能な開発目標）：

2015年9月、国連全加盟国の全会一致により、「我々の世界を変革する：持続可能な開発のための2030アジェンダ」が採択されました。その中で、人間、地球、繁栄のための行動計画として掲げた目標が、「持続可能な開発目標（SDGs）」の17の目標と169のターゲット。



【資金（助成金）】

N 連：外務省 NGO 連携無償資金協力

JPF：ジャパン・プラットフォーム

洛南 RC：京都洛南ロータリークラブ

経団連：公益信託経団連自然保護基金

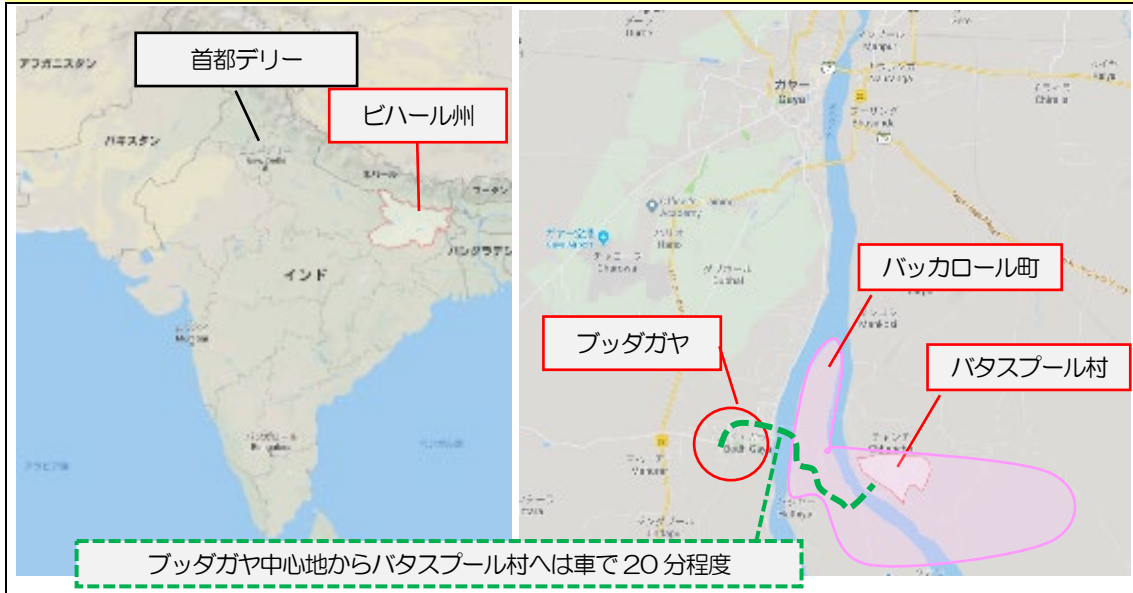
トヨタ：トヨタ環境活動助成プログラム

三井物産：三井物産環境基金

アサヒ：公益財団法人アサヒグループ芸術文化財団・芸術文化活動助成

事業計画

(1) インド



事業地 ビハール州マガダ郡ガヤ県プッタガヤ市バッカロール町（バタスプール村を含む7か村）
バスタプール村全人口：約2,100名、近隣6村の農家：約16,000名

目的 事業地バタスプール村の周辺地域農民に自然農業及び有機農業の技術移転を実施し、農村地域の経済発展を促進する。また、女性の有機農業への参加を通して、同村における女性の社会的地位の向上も促進する。くわえて、エコサントイレの普及などを通じた地域の衛生改善を図る。

主な活動

- ・有機農業を実践するビニールハウスの建設。
- ・青年農家を対象に自然農業及び有機農業技術の移転。
- ・女性向けの識字学級。
- ・衛生改善活動（エコサントイレの普及、ゴミ収集、環境教育など）。

展望 2019年3月より開始した本事業は、現地法人 NICDA (NICCO India Community Development Association) を立ち上げ、バタスプール村にビニールハウスを建設した。吉川理事ら農業専門家を現地に派遣し、メロンやプチトマトの有機栽培技術の移転を行っている。今後は、活動地域の拡大、マーケティング、住民による活動の持続性の強化に注力する。女性を対象とした識字教室もバタスプール村以外の村へ拡大する。また、滋賀県の中小企業のご協力のもと開発した尿カップを用いた新型エコサントイレの建設を進めており、今年度も本活動を継続する。

資金 N連、経団連、洛南RC、トヨタ、会費・寄付金等。

SUSTAINABLE
DEVELOPMENT
GOALS

2030年に向けて
世界が合意した
「持続可能な開発目標」です。

1 貧困を
なくそう



4 質の高い教育を
みんなに



5 ジェンダー平等を
実現しよう



6 安全な水とトイレ
を世界中に



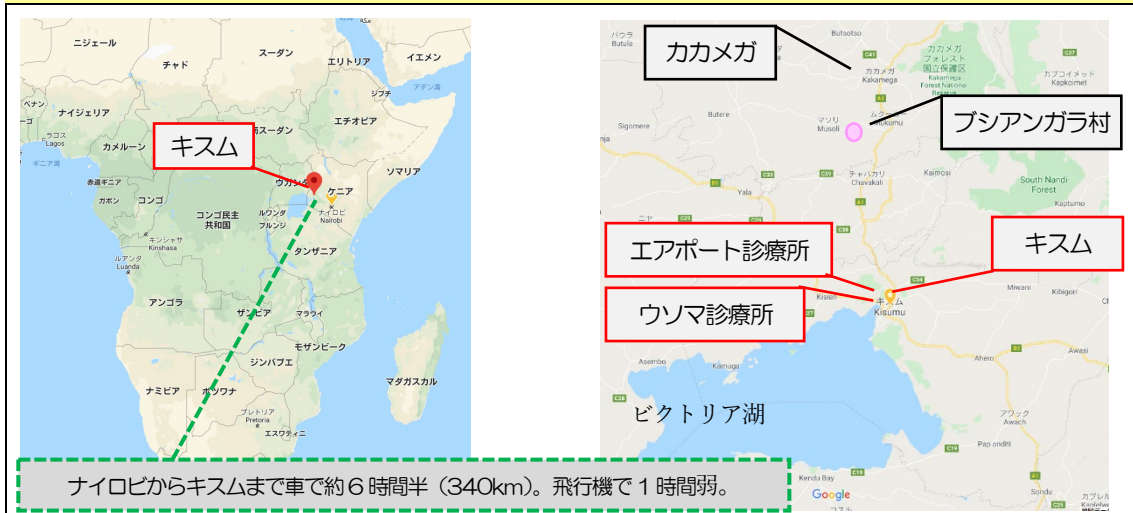
7 エネルギーをみんなに
そしてクリーンに



15 陸の豊かさも
守ろう



(2) ケニア



- 事業地**
- ・キスム郡キスム西準郡東キスム区コゴニ準区（人口：約 20,900 人）
 - ・カカメガ郡イコロマニ準郡イスル区ムコンゴロ準区（人口：約 8,000 人）

目的 キスムにおいては、妊産婦及び幼児の死亡率の改善に寄与することを目的として、産婦人科の診療設備環境の改善と住民への母子保健知識の普及活動を図る。また、キスムとカカメガにおいて、エコサントイレの普及による衛生環境改善、地域の植林活動の活性化による森林保全促進を目指す。

- 主な活動**
- ・エアポート診療所とウソマ診療所における産婦人科病棟環境の改善。
 - ・エアポート診療所前の道の改善（NPO 法人道普請人（CORE）との協働）。
 - ・コミュニティ・ヘルス・ボランティアの育成。
 - ・エコサントイレの普及。
 - ・住民による種苗場の運営の促進による地域の植林活動の活性化。

展望 キスムにおける保健事業は 2019 年 3 月より開始し、エアポート診療所の産婦人科棟の建設工事を行ったほか、キスム保健省との共同で地域保健を支えるコミュニティ・ヘルス・ボランティアに対し、保健知識強化のための研修を行った。今年度は、さらなる医療環境の拡充を図るとともに、ボランティアの活動強化を図る。また、キスムとカカメガの両地域において、エコサントイレの普及を通じた衛生改善、植林活動を活性化することによる環境保全を図る。

資金 N 連、三井物産、緑の募金、会費・寄付金等。

SUSTAINABLE
DEVELOPMENT
GOALS

2030 年に向けて
世界が合意した
「持続可能な開発目標」です

3 すべての人に
健康と福祉を



6 安全な水とトイレ
を世界中に



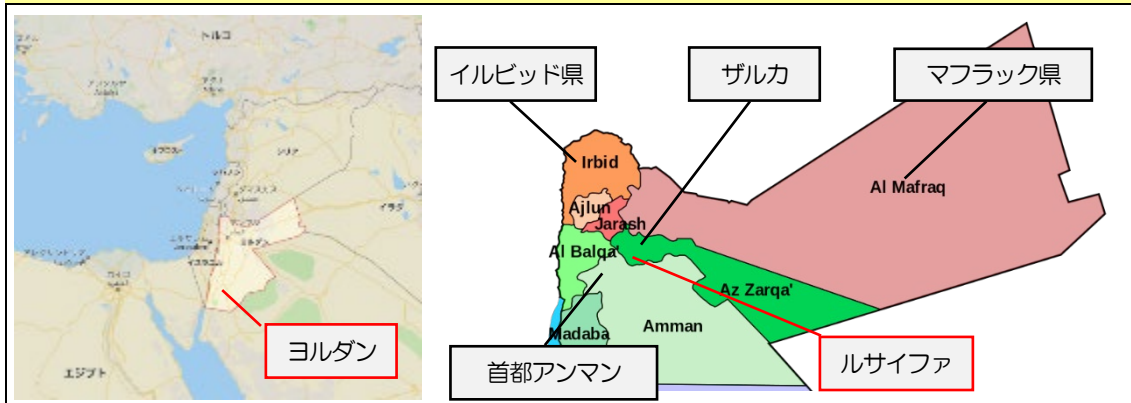
7 エネルギーをみんなに
そしてクリーンに



15 陸の豊かさも
守ろう



(3) ヨルダン



2030年に向けて
世界が合意した
「持続可能な開発目標」です



- 事業地**
- ・ [シリア難民事業] マフラック県、イルビッド県、アンマン県
(2897 世帯 (シリア難民 2024 世帯+ヨルダン人貧困層 873 世帯) (約 13,489 人)
 - ・ [ヨルダン青少年事業] ザルカ県ルサイファ市 (人口: 約 52 万人)

- 目的**
- [シリア難民事業]
マフラック県、イルビッド県並びにアンマン県で生活するシリア難民及びヨルダン人貧困層を対象に、越冬物資へのアクセス向上及び冬期の生活状況改善のための支援を実施することにより、困窮した生活状況の緩和に寄与する。
- [ヨルダン青少年事業]
ザルカ県ルサイファ市にある更生施設 (オサマ・ビンゼイド教育更生センター) の更生支援プログラムの実施環境整備や施設職員の能力強化、地域の人々と施設の交流を重ねることにより、当該更生施設が地域社会における非行少年の更生支援の中心的な役割を担い、少年たちの社会復帰への架け橋となるよう支援を行う。

- 主な活動**
- [シリア難民事業]
・ シリア難民 (2,024 世帯) 及びヨルダン人貧困層 (873 世帯) を対象に、冬期の生活状況改善支援としての現金給付。
- [ヨルダン青少年事業]。
・ 更生施設における施設改修と機能拡充。
・ 更生施設職員への人材育成 (心理的ケア)。

展望 現在実施しているシリア難民事業は、2019 年 10 月から 2020 年 5 月までの 7 か月間の限定的な越冬支援であり、現金給付および配布後モニタリングを実施して終了となる。ヨルダン青少年事業は、2020 年 3 月より新たに開始した 3 か年計画の事業であり、当該更生施設において更生支援体制モデルが構築をプロジェクト目標としている。1 年目となる今年度は、更生施設の活動環境や体制の整備・拡充が主目的となる。心理的ケアにおいては、NPO 法人地球のステージより専門家を現地に投入する。

資金 JPF、N 連、UNHABITAT、会費・寄付金等。

(4) 緊急人道支援

- 日本国内においては、2019年10月に発生した台風19号の被災地である栃木県、茨城県、宮城県において調査を行った。これらの地域では依然支援を必要としており、本会の能力と現地のニーズを勘案し、必要に応じて、適切な支援を行っていく。
- 東日本大震災被災者支援においては、継続して現地提携団体「フィッシュ・マーケット38(FM38)」に対して車両などを貸し出しや、FM38を通じた地域の零細漁師や水産業の復興を支援する。
- 海外・国内における緊急災害支援に備えた体制作りを行っていく。

(5) 調査・評価

ヨルダン、ケニア、インド、パレスチナ・ガザ、日本国内における終了事業のフォローアップを行うとともに、ビクトリア湖周辺国への事業拡大や中東地域でのシリア難民支援拡大のための調査等を行っていく。

(6) 広報・啓発

- ファンドレイジングに重点をおいた広報活動やインターン研修を改善・強化を図る。
- 今年度のイベントは、10月にNICCOチャリティラン鴨川、2021年2月にチャリティ・オークションを開催する予定である。
- 外務省NGO相談員を受託できた場合、NGOの国際協力活動、NGOの設立、組織の管理・運営など、市民やNGO関係者からの質問・照会に答えていく。また、国際協力への理解の促進のため、地方自治体や教育機関などと協力し、イベント等において相談業務や講演を行う。
- ケニアにおける困窮した人々への支援の関心や本会の活動への理解を図ることを目的に、ケニアへのスタディ・ツアーを企画・実施する。
- 2020年秋を目途に、創立40周年記念イベントを開催する。

(7) その他

• 文化事業

文化力の高い京都という地域であっても、経済力優先のため文化力は下がってきている。どの国においても文化力を失ってしまった文化果つる国には、新しい技術力のもとより、斬新な発展は見られない。本会は、その国の文化を守ることの大切さを国外の援助活動の現場から学び、現在に至っており、京都や日本の文化を守り、日本や世界の子供たちが学ぶことで、世界の平和構築につながることを願い、文化の支援を行っていく。今年度においては、茂山七五三先生(狂言師)の愛弟子であるオンジェイ・ヒーブル氏が率いる「なごみ会チェコ」の日本での活動を支援することによって、狂言の普及と発展に貢献し、並びに国際交流を通じた日本人の国際化を促す。

• 外国人材受入機関登録

日本の優れた技術を途上国に普及すること、および不足する日本国内の労働力を補うことを視野に入れ、途上国より人材を招き、国内の提携企業等への研修を実施するために、本会が受入機関となるような必要な手続きを進める。

以上